

2024年4月8日掲載 ユソー新聞

新・中央研修所が稼働 実技訓練まで充実

第一貨物 採用増も狙いに

第一貨物はこのほど、山形県天童市の同社中央研修所の老朽化

に伴う建て替え工事を終了し、新施設を稼働させた。

新研修所は天童市芳賀895の旧施設敷地内に建設したもので、鉄骨造2階建て・延べ床面積2892平方メートルの研修中央棟と、鉄骨造平屋建て・延べ床面積903平方メートルの実技訓練棟で構成。研修棟は全室個室で71室を設

け、うち20室は女性専用エリアとしており、3人部屋17室だった旧施設から大幅に環境を改善した。今回新設した実技棟は、模擬ホームや仮想営業所となる事務所スペースを設置。既存の運転コースとの併用や実際の営業所と同じシステムを扱うことで、ドライバ

1、車内作業員、事務員の全ての職種に、より実践的な教育を施せる体制を構築した。新研修所は、約3ヵ月におよぶ新入社員の場合研修や、階層別に実施する宿泊研修などに活用される。同社は山形県の認可を受けた企業内学校として、研修所を第一貨物流通技

能専門学校と位置付けており、1962年の設立以来約2千人の卒業生を送り出し、現在も約500人の卒業生が同社に在籍、このうち約100人が所長や現場管理者クラスの要職に就くなど、従来から社内教育に力を入れてきた。同社は新研修所の稼働に伴い、教育カリキュラムも再編していく考えとしている。



実技棟の模擬ホーム

1日に現地で開催した内覧会には松田伸三常務取締役管理本部長と仁科秀樹常務取締役人事部長が出席。実技棟の新設などで教育のさらなる充実を目指すことに加え、宿泊環境の改善まで含めて教育に力を入れていることをアピールし、採用者の増加に結び付けたいとの意向を強調した。